

生駒山麓公園再整備による 地域活性化のための 基盤整備検討懇話会 (第2回)

令和7年(2025)10月14日(火)

目次

- 01 第1回懇話会の振り返り
- 02 生駒山麓公園の概要(新規資料)
- 03 利用者アンケート、事業者・関係者ヒアリングについて
- 04 市の考える検討の方向性
- 05 今後のスケジュール等

01 第1回懇話会の振り返り

指摘事項(1) 現状分析に関するもの

指摘事項	対応状況	スライド番号
✓ 将来像の検討に必要な山麓公園の特性	- 植生調査 - 駐車場利用からみた市内・市外区分	9～11 24
✓ 周辺施設や競合施設の把握	既往資料から整理	13～23
✓ 無料の入園者、徒歩入込等の状況把握 ✓ 指定管理者の報告だけでは見えていない利用者についてのニーズ把握	利用者アンケート実施（8/23(土)・24(日)、9/20(土)・21(日)）	26～29
✓ 現在の事業者の意向や課題の確認	現・指定管理者ならびに占用（福祉施設）事業者にヒアリング実施	30～31
✓ 小中学校の団体利用者のニーズ	市の庁内調整会議、指定管理者を通じて、情報収集の方法を検討	32
✓ サンフェスタなどの公園イベントに関わったスタッフから成果や効果のヒアリング	調整中	調整中

指摘事項(2) 市民アンケート、構想内容に関するもの

● 市民アンケート

指摘事項	対応状況	スライド番号
✓ 市民アンケートでは、施設の評価とプログラムなどのソフト面の評価の2点を確認	・ 市民アンケートの設問項目に反映（予定）	33
✓ 利用していない人へのアンケート実施（利用していない理由を明確に）	・ 市民アンケートの設問項目に反映（予定）	33
✓ 市外も対象にした広域的な調査	・ オンラインモニターアンケートを実施（予定）	33

● 構想の構成や内容

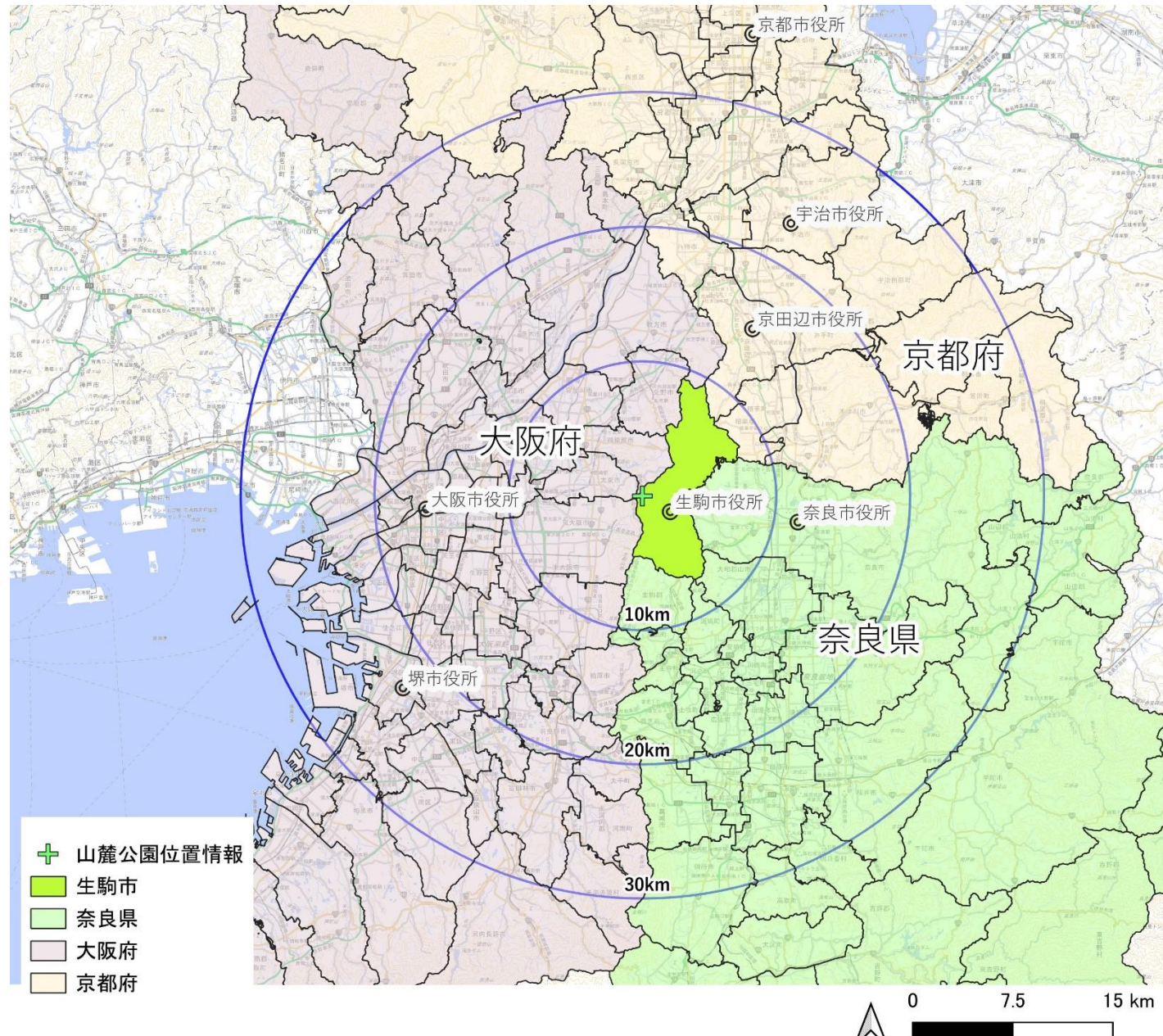
指摘事項	対応状況	スライド番号
✓ 目標像とターゲット案の関係性を明確に、ターゲット層の見直し	・ 主な論点・検討の方向性の整理	35 41～42
✓ 想定する利用者像により、想定収支や利用者満足度の高低差などの整理	・ 現状分析～公園全体・各施設の課題整理	37～38
✓ 民間投資と行政投資とでは、ターゲットやイメージが異なる。早期に整理を	・ 現状分析のまとめ	39～40 46
✓ 収益施設により、どこから、どのように収入を得て、どのようにして事業を継続させ、市民に還元するかの設定	・ 検討フロー ・ 検討の方向性の整理	36 43～46

02 生駒山麓公園の概要

(新規・修正資料)

山麓公園の位置

- 生駒市は奈良県、大阪府、京都府の境界にあたる。
 - 生駒山麓公園から主要都市までの直線距離を見ると、奈良市が約12km、大阪市が約17km、堺市が約23km等である。
 - 主要都市からの所要時間
奈良市約25分
大阪市約45分
堺市約50分
京都市約60分
- ※起点は各市役所



全体図



相観植生図

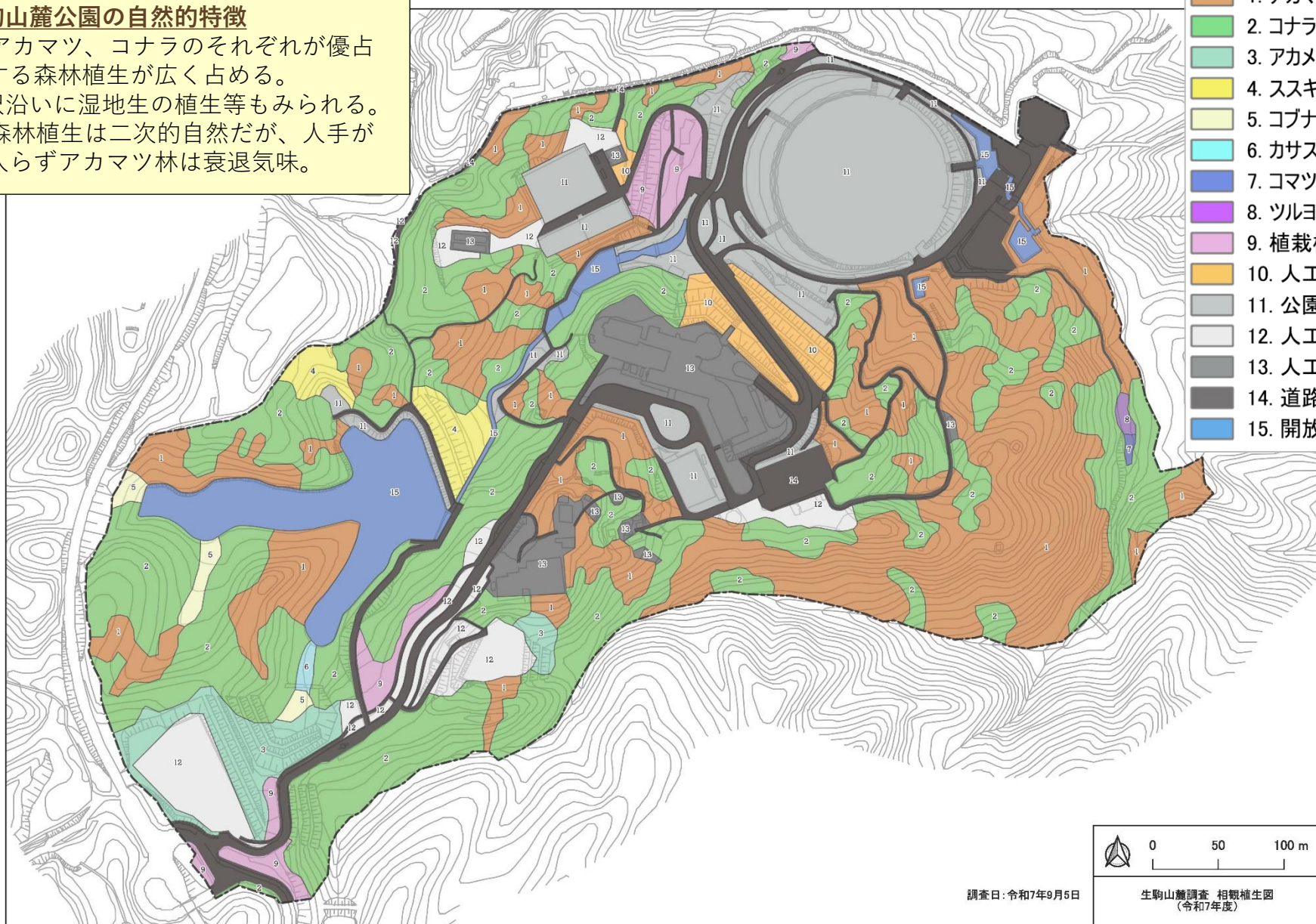
生駒山麓公園の自然的特徴

- アカマツ、コナラのそれぞれが優占する森林植生が広く占める。
- 沢沿いに湿地生の植生等もみられる。
- 森林植生は二次的自然だが、人手が入らずアカマツ林は衰退気味。

凡例

範囲

- 1. アカマツ群落
- 2. コナラ群落
- 3. アカメガシワ群落
- 4. ススキ群落
- 5. コブナグサ群落
- 6. カサスゲ群落
- 7. コマツカサススキ群落
- 8. ツルヨシ群落
- 9. 植栽樹林
- 10. 人工草地
- 11. 公園・グラウンド
- 12. 人工裸地
- 13. 人工構造物
- 14. 道路・駐車場
- 15. 開放水域



調査日: 令和7年9月5日

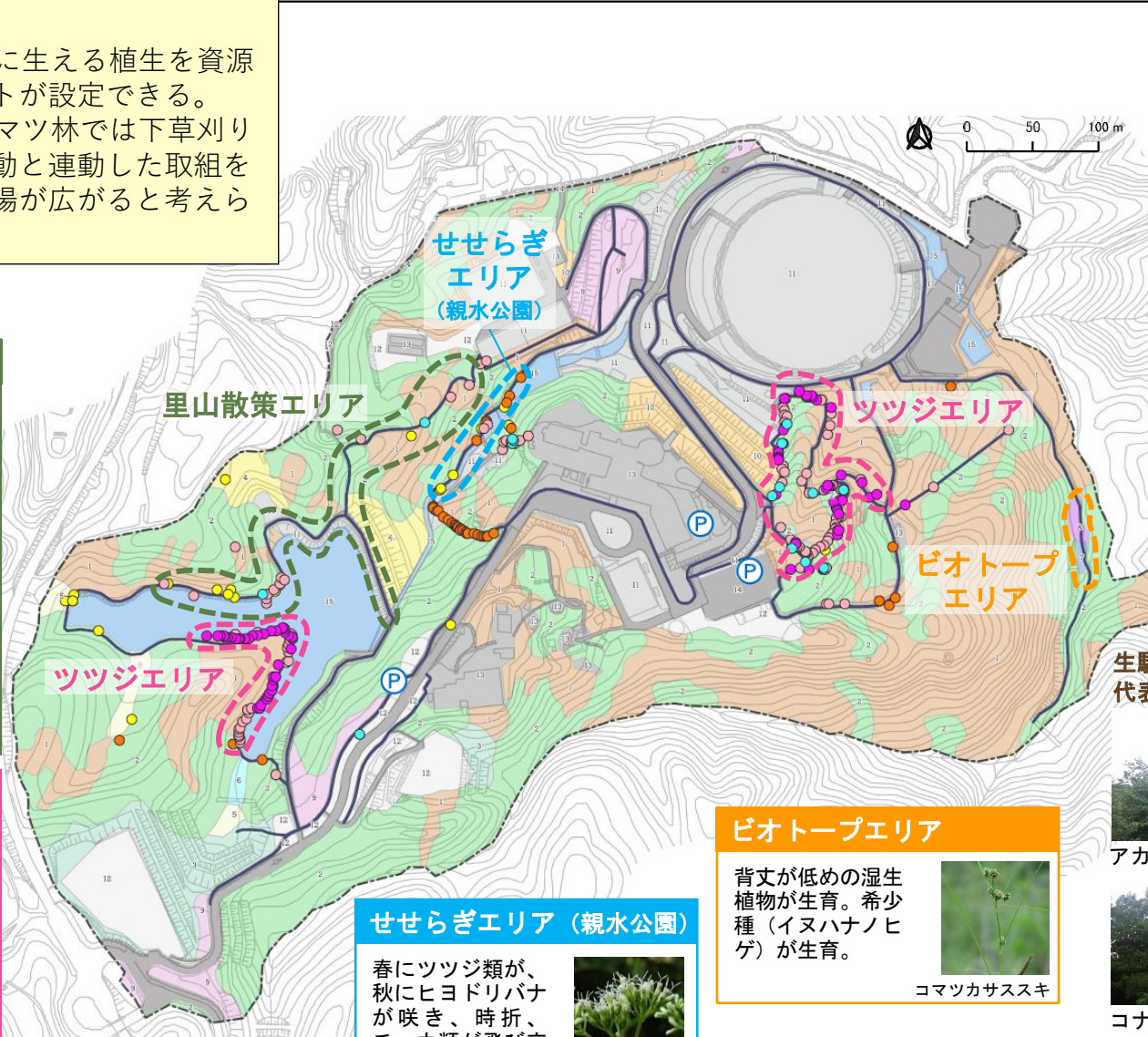
生駒山麓調査 相観植生図
(令和7年度)

自然環境ポテンシャルマップ

活用の可能性

- ツツジ類はじめ、林床に生える植生を資源とした散策・観察ルートが設定できる。
- 森林植生は、特にアカマツ林では下草刈りや間伐を要し、体験活動と連動した取組を進めることで、活用の場が広がると考えられる。

- 凡例
- 範囲
 - 散策路
- 【相観植生】
- 1. アカマツ群落
 - 2. コナラ群落
 - 3. アカメガシワ群落
 - 4. ススキ群落
 - 5. コブナグサ群落
 - 6. カサゲ群落
 - 7. コマツカサスギ群落
 - 8. ツルヨシ群落
 - 9. 植栽樹林
 - 10. 人工草地
 - 11. 公園・グラウンド
 - 12. 人工裸地
 - 13. 人工構造物
 - 14. 道路・駐車場
 - 15. 開放水域
- 【資源植物確認位置】
- [春に開花]
- コバノミツバツツジ
 - モチツツジ
 - ツツジ類以外
- [夏に開花]
- ヒヨドリバナ
 - ヒヨドリバナ以外



里山散策エリア

アカマツやコナラの林床に、ヤブラン、チゴユリなどの小さな植物がみられる。



ヤブラン



チゴユリ



ノギリ

ツツジエリア

アカマツ林の下に、コバノミツバツツジ、モチツツジなどツツジ類が多い。



コバノミツバツツジ



モチツツジ

せせらぎエリア (親水公園)

春にツツジ類が、秋にヒヨドリバナが咲き、時折、チョウ類が飛び交う。



ヒヨドリバナ

ビオトープエリア

背丈が低めの湿生植物が生育。希少種(イヌハナノヒゲ)が生育。



コマツカサスギ

生駒山麓公園の代表的な植生



アカマツ群落

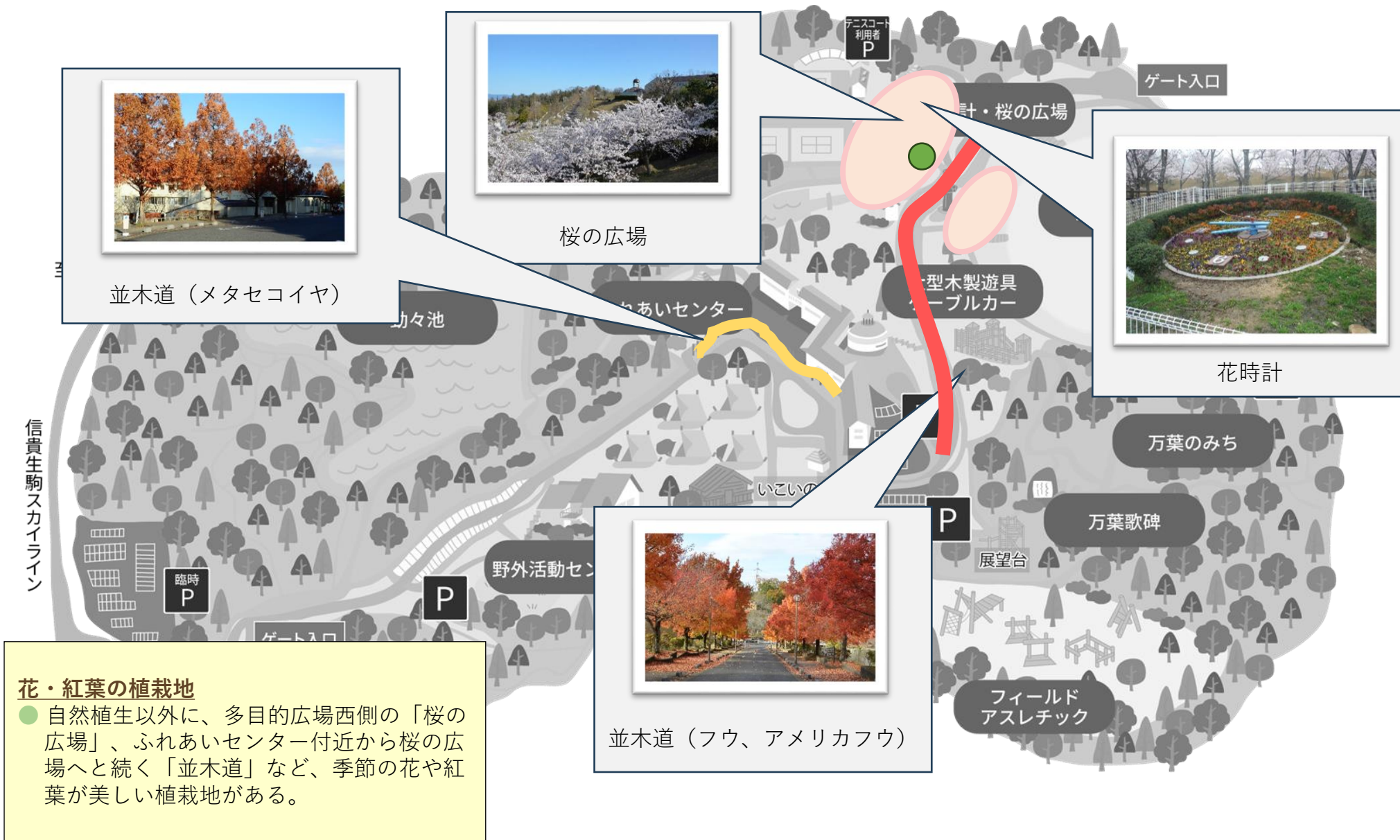


コナラ群落

植物写真引用：岡山理科大学HP

エリア名は自然環境ポテンシャルから見た仮称

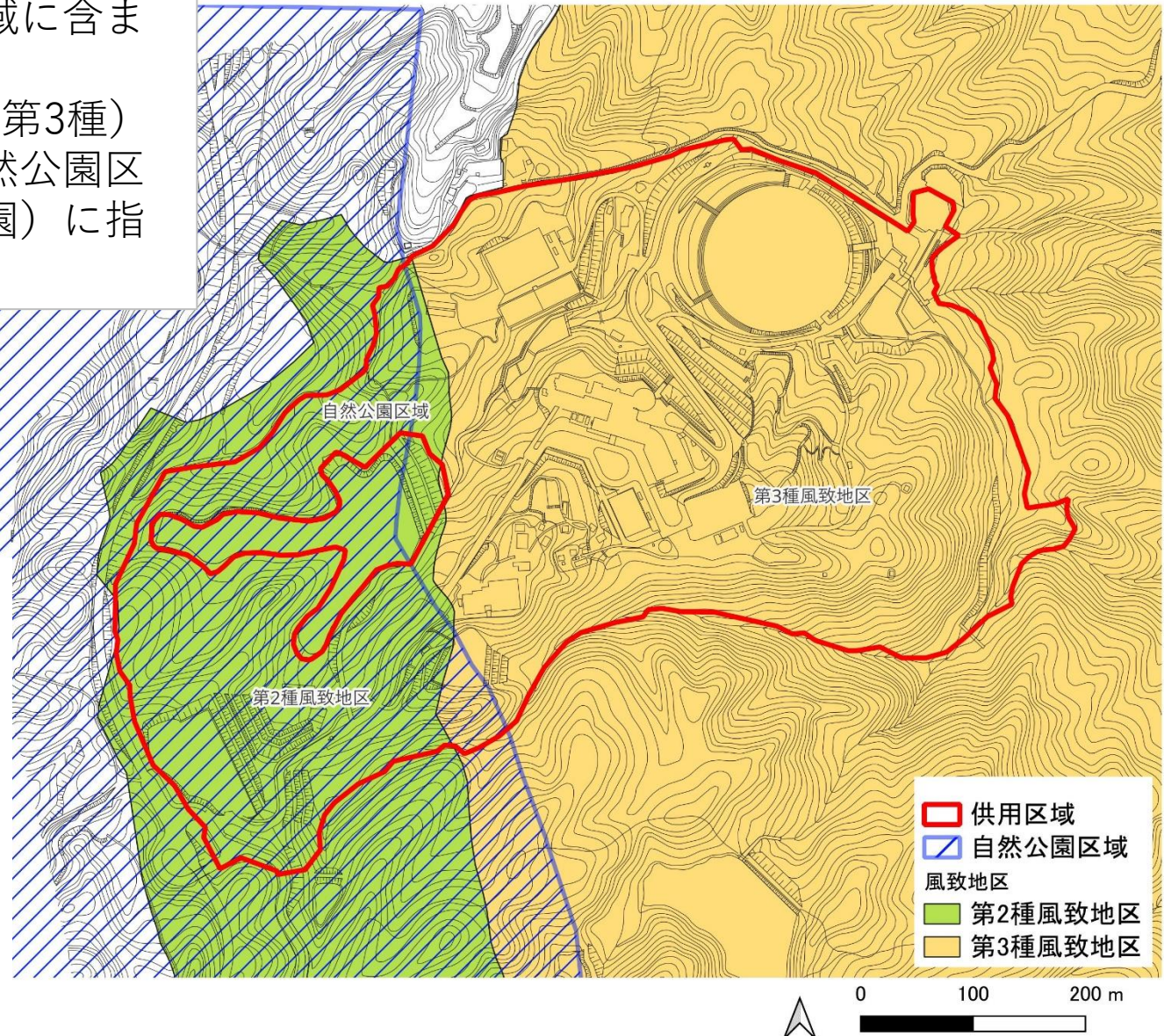
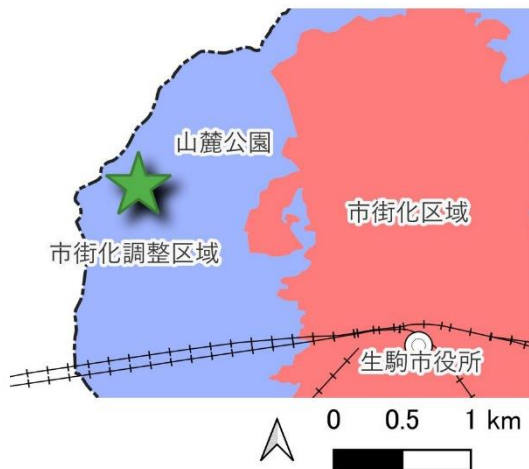
花・紅葉の植栽地



法規制(自然公園、風致地区)

- 公園区域は市街化調整区域に含まれる。
- 全域が風致地区（第2種、第3種）に指定され、西半分は自然公園区域（金剛生駒紀泉国定公園）に指定されている。

生駒市都市地域（山麓公園周辺）



生駒山ブランドの推進

生駒山ブランドに関する取組

- 生駒市、東大阪市、近鉄で「生駒山ブランド推進協議会」を設置（近鉄の参加は令和7年度～）
- 令和7年度から「ミシュラングリーンガイド」の取得に向けた取り組みがスタート



山麓公園で充実が求められていること

① 観光資源の魅力向上

- アンテナショップ・案内所の設置・宿泊施設誘致・飲食店の充実
- グルメ・お土産品開発・体験型レジャーコンテンツの開発
- 冬季のアクティビティの開発

② 地域連携の強化（地元小中学校の登山学習等）

③ 観光動線の整備（観光用シャトルバス、周遊ルート）

周辺施設の状況(生駒山系の自然を活かした公園等)

- 生駒山系には、生駒市内では宝山寺や山上遊園地等の施設がある。
- また、大阪府側には府民の森(くろんど園地～なるかわ園地)が連なっている。四季折々の花を楽しむ公園として親しまれており、ハイキングコースが整備されている。
- 滞在型の公園施設等は近隣にはない。



資料：『生駒の散歩道』
『生駒山満喫ハイキングコースマップ』などから作成

生駒山上遊園地について

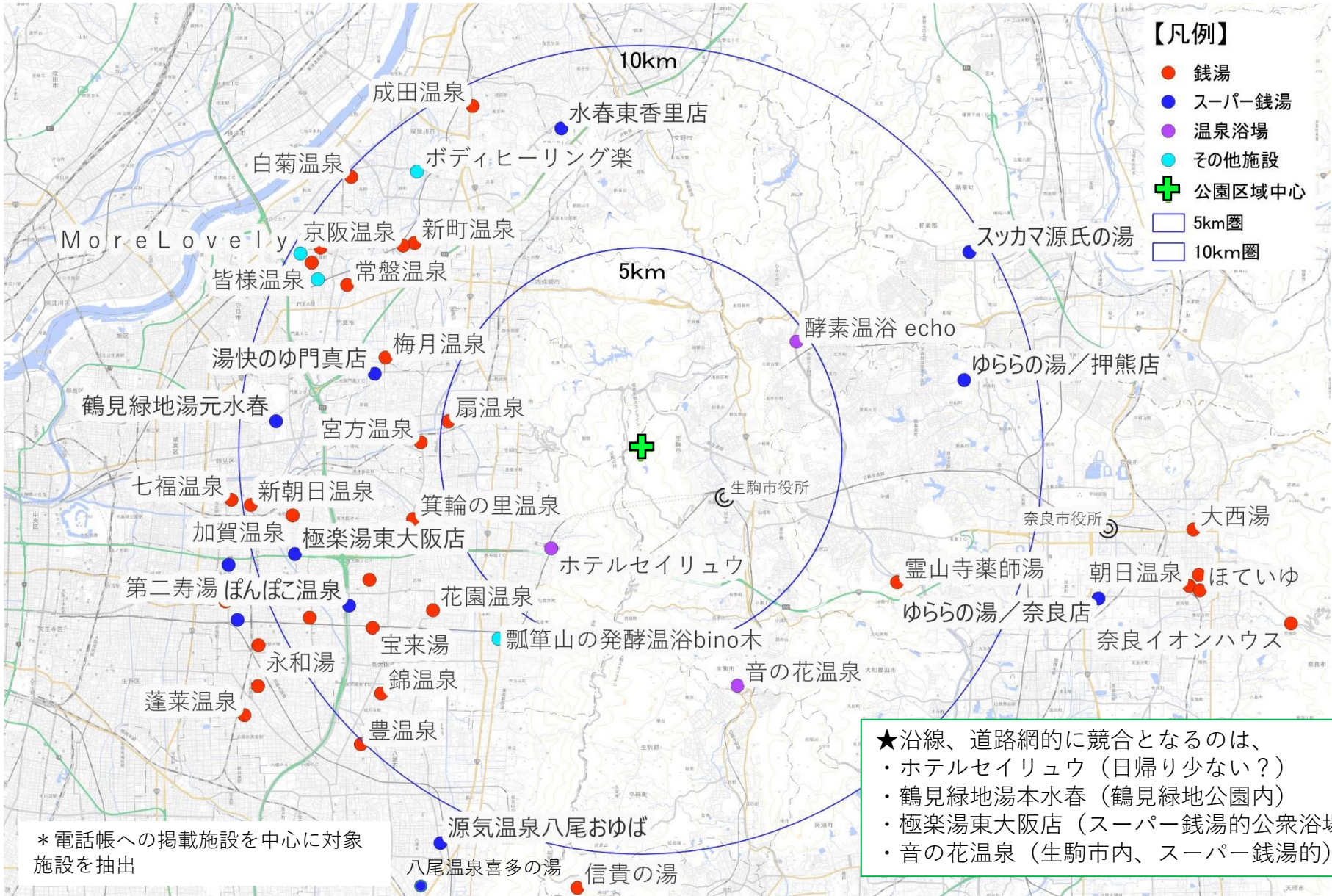
施設概要	✓ 昭和4年（1929）開園 ✓ 日本最古の大型アトラクションとされる「飛行塔」を中心に地域から親しまれている ✓ 近年はファミリー層に特化した戦略に取り組んでおり、遊具からの夜景はSNSでも話題となっている ✓ 現在の目標来園者数は40万人（2024年）
料金	✓ 入園料は無料 ✓ 個別にアトラクション料金が必要 ✓ 駐車場は有料となるが、園内の散策は自由に行える
特徴	✓ ボーネルンド監修の遊具エリア「ITADAKI」も人気。土日祝のみの営業で、平日は学校団体貸切にも対応
アクセス	✓ 生駒ケーブル「生駒山上駅」 徒歩すぐ 山麓公園からのアクセス ✓ 徒歩＋ケーブル 約30分 ✓ 自家用車 約5分
周遊ルート	✓ 徒歩 ケーブル→遊園地→公園→ケーブル ✓ 自家用車 公園→遊園地→公園



生駒山上遊園地HPより



周辺施設の状況(温浴施設)

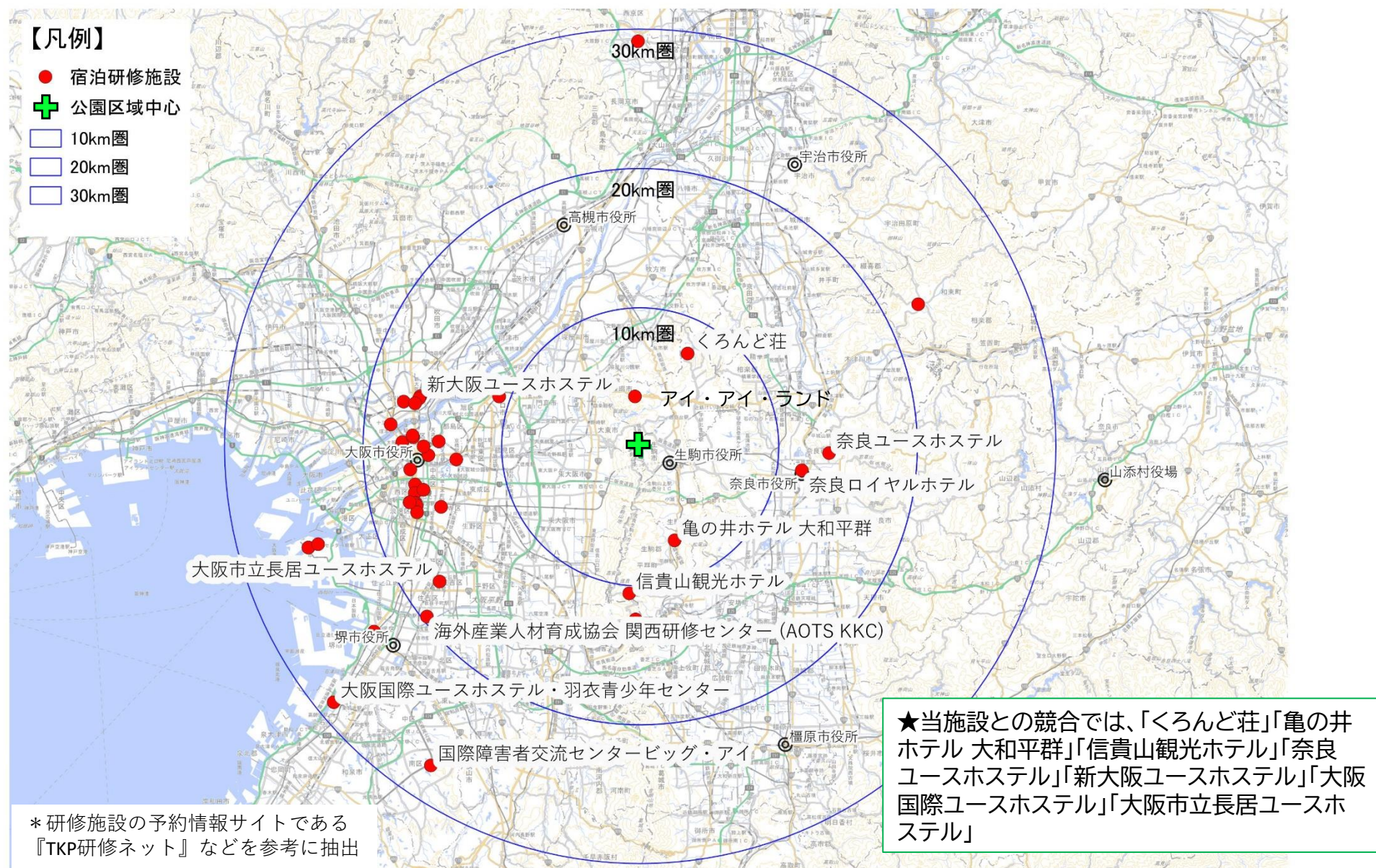


周辺施設の状況(主な温浴施設)

施設名	施設規模	利用料	利用客層	山麓公園浴場との競合関係
生駒山麓公園 ふれあいセンター	内湯（白湯・バイブラ等） 露天岩風呂 サウナ等（洗い場6席前後）	大人 310円 ／1日券 470円 （市民割引あり）	近隣住民 公園利用者、家族連れ ハイキング	低価格・公園連動で強いが、設備シ ンプルで滞在型には弱い
ホテルセイリュウ （東大阪市）	旅館型大浴場 （男女入替制、露天付）	日帰り約 1,000円 （食事付プランあり）	宿泊・観光客 日帰りくつろぎ層	宿泊付加価値で差別化、気軽利用層 とは競合しにくい 日帰り利用は少ない
鶴見緑地 湯本水春 （大阪市）	多種浴槽・岩盤浴・露天風呂 （大型）	平日約 1,000円 （土日祝加算、岩盤別）	都市部住民 スパ・岩盤浴志向層	滞在型需要に強いが、価格が高く棲 み分け可能
極楽湯 東大阪店 （東大阪市）	内湯・露天・サウナ 水風呂・休憩所（大型）	大人約 600円 （回数券あり）	地域住民、家族連れ サウナ客	日常入浴層で競合 設備豊富で手頃価格 地域客主体で競合なし
音の花温泉 （生駒市）	内湯＋露天岩風呂 食事処、駐車場多数	大人約 1,000円 小人約 500円 （水曜割あり）	近隣住民、家族連れ 滞在型利用者	湯＋食で滞在性はあるが、高価格 気軽利用層は山麓公園優位
日帰り天然温泉 信貴の湯 （三郷町）	天然温泉 内湯・露天・サウナ	平日約 800円 土日祝約 850円	ドライブ客 温泉志向層	泉質志向で中距離客を取る ついで入浴層と棲み分け スカイライン至近。
ゆららの湯 押熊店 （奈良市）	内湯・露天・電気風呂 炭酸泉・サウナ （大型スーパー銭湯）	大人平日 750円 土日祝 800円	地域住民、家族連れ サウナ・長風呂志向層	手頃価格・設備充実で、日常利用層 では競合が強い
ゆららの湯 奈良店 （奈良市）	内湯・露天・壺湯 サウナ・水風呂 （大型スーパー銭湯）	大人平日 750円 土日祝 800円	奈良市内住民 若年層・家族層	アクセス良く競合強め 低価格帯の山麓公園とは目的棲み分 け

- 奈良県の公衆浴場料金 4 8 0 円、大阪府は、6 0 0 円。
- 山麓公園は公衆浴場料金よりも低額かつ高齢者減免があるため、周辺施設よりも際立って低額である。
- 今後、温浴施設の設備やサービスを充実させると、料金値上げが避けられない。この場合、高齢者等の安価な日常利用が減少する一方で、他施設との競合が発生するため、山麓公園内の他施設との連携等により差別化を図る必要がある。

周辺施設の状況(宿泊研修施設)



周辺施設の状況(主な宿泊研修施設)

施設名	宿泊定員／部屋構成	研修・会議室規模	主な利用客層	山麓公園との強み・弱み・競合関係
生駒山麓公園 ふれあいセンター	総定員 約168名 洋室定員16名 7室 和室 7室	会議室：50名用 ×2 80名用 ×1 多目的室貸切可	青少年団体 企業研修 家族利用 親睦会等	強み：自然環境、浴場付き、セルフ運営でコスト低め、比較的大規模収容可能 弱み：宿泊設備・サービス性では見劣り 交通アクセス・設備の豪華さで劣る可能性 競合：他施設の団体需要を一定程度取り合うが、自然環境を活かす差別化可能
くろんど荘	最大 約90名 客室10室 合宿受入可	洋間23帖×2室 (連結可)	企業 サークル・学生合宿 自然体験重視団体	山麓公園は定員で上回る可能性 くろんど荘は宿泊＋ホテル的安心感が強み 競合度：中～高
大阪国際ユースホステル	最大 218名 定員6名 29室 ほか11室	定員96名 1室 定員40名 1室 定員60名 1室 等	青少年団体 文化・スポーツ合宿	大規模研修需要で強力な競合 山麓公園は設備・アクセスで差異化 競合度：中～高
亀の井ホテル 大和平群	約42室構成 (宿泊可能人数変動)	会議室82㎡ 1室 ほか 2部屋	宿泊観光客・宴会 会議利用団体	ホテル機能（温泉・サービス）強み 山麓公園との差別化は価格・自然体験訴求 競合度：中
奈良ユースホステル	最大 200名 洋室定員7名 23室 ほか11室 (ドミトリー主体)	会議室 3室	学生団体・クラブ ゼミ等低予算層	山麓公園は施設規模・環境強み 価格競争で対抗が必要 競合度：中
信貴山観光ホテル	約40室 (団体対応可)	大広間 会議室あり	修学旅行 観光団体企業研修	観光拠点型の性格強め 山麓公園は研修・自然体験型で棲み分け可能 競合度：低～中
アイ・アイ・ランド	コテージ6室 グループリーム4室 洋室14室	テニスコート・浴場 研修室・会議室あり	スポーツ団体 学生、ゼミ等	自然環境とレクリエーション施設の組み合わせが似ている。浴場やテニスコートがあるのも類似 競合度：高
大阪市立長居ユースホステル	最大 約100名 6名定員 9室 ほか6室	会議室 多目的室複数	スポーツ団体 学生、ゼミ等	スポーツ合宿需要で強み 山麓公園は自然体験・研修重視層を狙えば差別化可 競合度：低～中

- 宿泊研修施設は大阪都心部に多い。
- 山麓公園はアクセス面ではやや不利だが、自然に包まれた生駒山麓のなかにあり、スポーツ施設やキャンプ場等と一体的な施設であるという有利点もある。

周辺施設の状況(キャンプ場)



周辺施設の状況(キャンプ場)

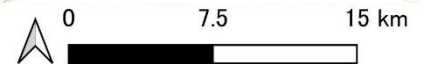
施設名	施設規模	利用料（円）	利用客層	山麓公園との競合関係
IKOMA SANROKU CAMP	・ ロッジ 5 棟 ・ テントA 4 区画 ・ テントB 8 区画 ・ オートサイト 10 区画 ・ ウッドデッキ 1 区画 ・ 手ぶらサイト 1 区画 ・ BBQ ・ 体験プログラム・収容176名	・ ロッジ 20,000 ・ テントA 7,000 ・ テントB 4,000 ・ オートサイト 11,000 ・ ウッドデッキ 8,000 ・ 手ぶらサイト 24,000	家族連れ 学校団体 企業研修	地元密着型で体験重視 設備充実で競合力高い スカイライン阪奈料金所間のみ不要。 その他区間は片道2700円 駐車場520円（市外者のみ） 入浴（ふれあいC）17:00-20:00
東大阪市立野外活動センター by RECAMP	・ ウッドデッキ 12区画 ・ テントキャビン4区画 ・ コテージ 4棟 ・ BBQ場 ・ プレイルーム	・ ウッドデッキ 3,000 ・ テントキャビン 4,000 ・ 手ぶらサイト 7,000 ・ コテージ 4,800、9,000 ・ BBQ場 ・ プレイルーム	若年層 ファミリー 初心者キャンパー	夜景・設備面で差別化 価格競争力あり スカイライン通行料必要(片道2700円)
スノーピーク箕面キャンプフィールド	・ オートサイト 72区画 ・ オートサイト（電源有） 20区画	・ オートサイト 5,170-6,270 ・ オートサイト（電源有） 6,270-7,370	キャンプ愛好者 ブランド志向者 都市近接レジャー層 ファミリー ソロなど	価格は比較的高めだが、ブランド力と設備訴求力が強み 生駒としては、体験重視型や多用途受け皿型を差別化軸とできる。 都市圏近接キャンプ需要で競合する可能性高
杜のテラス（能勢町）	・ オートサイト 46区画 ・ グランピング 2区画 ・ カジュアルグランピング 2区画	・ オートサイト 2,500／人 +サイト利用料500 +電源有500 ・ グランピング 15,000～18,000～22,000 +3,000/人 ・ カジュアルグランピング 8,000～11,000～15,000 +3,000／人	ソロ 少人数志向 カップル 静かな自然体験志向者	価格帯が比較的抑えられており、静かさ・自然志向での差別化強みあり 生駒としては「研修対応」「大規模受け入れ」「団体プログラム付加」などが競争優位性を持てる領域 アクセス優位性を生かす

- 近隣の公立キャンプ場のなかでは、山麓公園の利用料金は高額である
- 近年のニーズとして、ファミリー・少人数グループ向けのロッジやコテージの人気の高まっており、それらの施設や体験プログラムの充実が求められる。

周辺施設の状況(フィールドアスレチック)



*観光案内サイトである
「じゃらん」を参考に整理



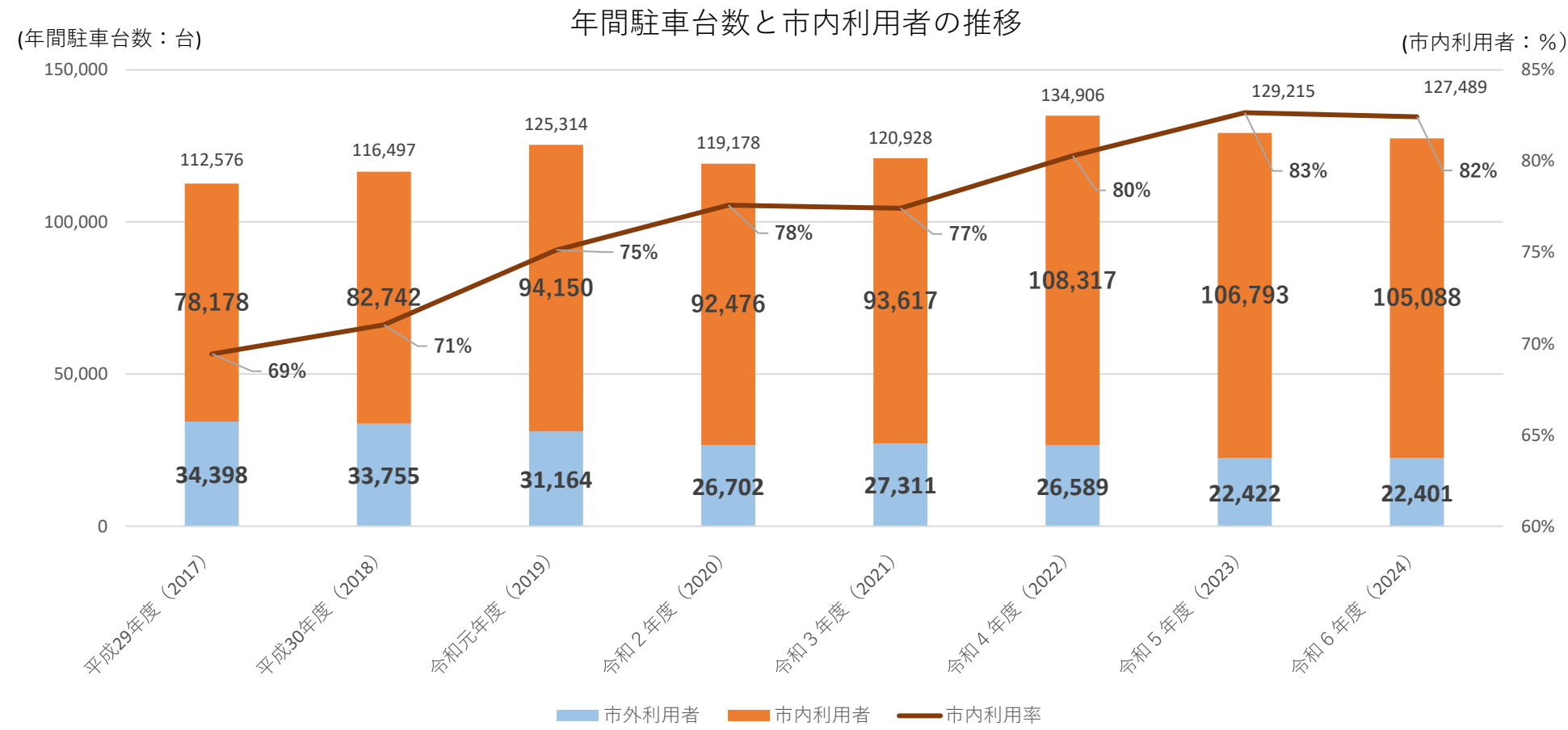
周辺施設の状況(主なフィールドアスレチック)

施設名	施設規模	利用料	利用客層	山麓公園との競合関係
生駒山麓公園 フィールドアスレチック	1 コース 800m (所要時間 1時間) アスレチック 30点	大人 500円 中高生 400円 小学生以下 300円	家族連れ	生駒山の斜面を活かした施設で、料金も安価に体験できる BBQ場、宿泊施設も併設されている
ボウケンノモリ おうじ (菩提キャンプ場内)	アドベンチャーコース (所要時間 2時間) ディスカバリーコース (所要時間 1.5時間)	3,000円 繁忙期 3,500円 2,000円 繁忙期 2,500円	家族連れ 学生	自然のなかでハーネスを着用したアスレチック体験ができる BBQ場が併設 金額面での差別化可能
ボウケンノモリ 長居	ピクニックコース (所要時間 45分) ツリーシェイドアドベンチャー (所要時間 15分)	1,200円 繁忙期 1,500円 無料 (3歳以上対象)	家族連れ 学生	大阪市内にあり、都市部からのアクセスが良好 自然体験という面で差別化可能
高槻フィールドアスレチック 成合コース	史跡コース (所要時間 70分) アスレチック 25点 民話コース (所要時間 90分) アスレチック 35点	高校生以上 800円 小中学生 600円 3歳以上 300円	ファミリー層向け 学校団体	山麓公園同様、アスレチック協会が設計 学校利用も多い
六甲山アスレチックパーク GREENIA	アスレチックエリア 6つ (各エリアの所要時間 30分～150分) フォレストアドベンチャー (所要時間 120分～150分) ジップスライド (所要時間 40分～90分)	大人 3,000円 学生 2,500円 小学生 2,000円 4歳以上 1,500円 上記金額に加えて、 平日 2,000円 土日祝 2,500円	家族連れ 学生	六甲山の自然の中にある施設 人気YouTuberとのコラボアスレチックがあり、話題性が高く若年層の来園者も多い

- 圏内ではアスレチック施設そのものが多いわけではない
- ボウケンノモリが圏内に4店舗みられる
- また、都市部では小スペースで実施できるタワー型アスレチックも登場している

駐車場の利用状況における市内・市外区分

- ✓ 年間駐車台数は11～13万台で推移
- ✓ 年間駐車台数のうち市内利用者は増加傾向にあり、近年は約80%強。



※市内利用者には、市内在勤、障がい者等の割引対象者を含む。

03

利用者アンケート、 事業者・関係者ヒアリング について

利用者アンケートの実施概要

目的	公園利用者の利用状況やニーズを把握する
対象者	実際に公園を利用している方
実施方法	対面及びオンライン (オンラインは、指定管理者の協力のもと現地にQRコードを掲示して誘導)
実施時期	対面：令和7年(2025)8/23(土)～24日(日)、9/20(土)～21(日) オンライン：令和7年(2025)8/23(土)～9/30(火)
回収数	対面：214票 オンライン：41票

利用者アンケートの結果の概要・1

利用者の属性	- 年代：30代 28%、40代 29%、70代以上 16% - 居住地：市内 48%、県外 37%	➡ 市内高齢層＋市内・県外子育て世代の二極構造
利用頻度	「年1回以上または数年に1回」、「初めて」利用が6割以上 - 日常的な利用（週1回以上）は少数 - 市内高齢層（特に70代）は定期利用（週1以上・月数回）あり	➡ “観光の利用”が中心だが、地域高齢層の生活利用も存在（“観光利用＋生活利用”の二重構造）
利用目的	30～40代：「子どもを遊ばせる」 50代以上：「ハイキング・ジョギング」 - 市内利用者：「子ども・入浴目的」 - 県外利用者：「ハイキング中心」	➡ 「ファミリー利用」と「健康志向利用」の二軸

利用者アンケート結果の概要・2

サービス ・料金への意向	- すべての施設が「料金据え置き・現状維持」を希望 「料金上昇でも質向上」の希望が比較的多い施設は、1. 浴場 2. フィールドアスレチック 3. 野外活動センター・レストラン	➡ 重点投資対象は “快適性と体験価値”の 高い施設群
ハード面のニーズ	30～40代：「屋内遊び場」「全天候型施設」 50～60代：「飲食・物販」「くつろげる屋内空間」「アクセス改善」 70代以上：「現状維持」派が多い	➡ 世代別で異なる期待 若年層＝利便・体験 高齢層＝静養・継続利用
ソフト面のニーズ	- 若年層(20～40代)：「自然を活かした体験型」「親子イベント」 - 中年層(50～60代)：「健康・アウトドアプログラム」 - 高齢層(70代～)：「イベント不要」傾向	➡ “自然×学び×健康”の 体験プログラムが支持 されやすい

利用者アンケート結果のまとめ

観点	現状	今後の検討課題
利用構造	子育て世代＋高齢層中心	中間層・リピーター層の掘り起こし
機能	日帰り・健康利用中心	滞在型・交流型機能の再生
施設	遊具・浴場が強み	屋内施設・飲食・休憩機能の充実
サービス	「料金上昇でも質向上」 ・浴場 ・フィールドアスレチック ・野外活動センター・レストラン	「選択的付加価値サービス」導入可
イベント	・自然を活かした体験型 ・親子イベント ・健康・アウトドアプログラム ・ただし、年代差が大きい	年齢層別のプログラムデザインが必要

※高齢者層は、浴場利用が多く、サービス、イベントとも新たなニーズがなく現状維持

事業者・関係者ヒアリング(結果概要)

指定管理者

- ✓ 1年間運営をしてみて、特に対応が必要だったものは、修繕である。経年劣化など、施設全体としてインフラ整備が必要不可欠である。現在の指定管理期間は、準備期間ととらえているため、その後の10年の長期的な視点を持って運営している。
- ✓ ふれあいセンターについては、老朽化した施設を行政が改修を実施した上で、運営上の自由度（料金設定等）を高めていただければ、自主事業として運営することも可能である。
- ✓ 宿泊についても一般向けのニーズはあり、リノベーションなどを行えば利用客を増やせると思う。また、学生スポーツ団体などの利用ニーズもあるので、まだまだ伸ばせる可能性はある。
- ✓ 自主事業としてのフィールドアスレチックや野外活動センターは、市が整備した施設を引き継いで運営している形だが、これも老朽化が否めない。野外活動センターは、ロッジが好調であり、昨今のニーズを考えると、増やしていくべきだと思う。
- ✓ 動々池やせせらぎ広場など、体験プログラムの場として活用できる可能性がある資源は、まだ公園内にあると考えている。
- ✓ 主要施設が多くあるふれあいセンター周辺に駐車場を増えるのが理想である。ゴールデンウィークは、多目的広場を臨時の駐車場として利用しているが、多目的広場を利用したいというニーズもあるため、課題と考えている。
- ✓ 夏場は自由に遊べる水場がないのが客足が減る要因であるため、せせらぎ広場の活用が必要と考える。

事業者・関係者ヒアリング(結果概要)

福祉事業者(レストラン運営、花の彩り事業等)

- ✓ 重度の障がい者が活動する場としては、自然が多い都市公園は、街中で彼らが委縮してしまうような場とは異なり活動しやすい。一般の利用者と交わりながらのいい環境といえる。
- ✓ 事業開始時に、生駒市からコストとメニューの提案があり、現状もその水準を維持している。
- ✓ 一時、安価なメニューを開発・提供したこともあったが、客層が変わってしまったり、長時間の滞在が増えたりして、全体的な運営としては難しいことが増えた。一定の客層を維持するためには、現状程度の価格帯が妥当だと思っている。
- ✓ 指定管理として参入した当時は、都市公園と社会福祉施設の協働のものが少なかった。そこで、山麓公園で日本のモデルケースとなるよう事業を進めてきた。
- ✓ 施設については、独立した場所のほうがメリットはある。環境障がいがある方など、既存のものにまず慣れるプロセスが必要だが、あらかじめ通所者が馴染めない要素を外して作れるので、我々にとっては使いやすい。
- ✓ 現状施設は福祉用ではないため壁が薄く、うっかり穴をあけてしまう利用者がいる。
- ✓ 現状の施設をそのまま活用するのであれば、福祉に力を入れている施設ということを一般の利用者にも視覚的に伝えるべきではと考えている。
- ✓ ふれあいセンター内のカーペットを色で障がい者の方が自由に過ごすことのできるエリアをゾーニングしたり、ピクトグラム等のわかりやすいバリアフリーを進めるなどの方法がある。

団体利用者調査

目的

公園を利用している団体の利用状況、ニーズを把握する

対象者

市内小中学校

実施方法

ヒアリング

実施時期

10月（予定）

10月中に庁内関係課もしくは野外活動に詳しい先生方にヒアリングを実施する方向で調整中

市民アンケート調査について

目的	山麓公園の今後の再整備の方向性について市民の意見を確認する
対象者	16歳以上の生駒市在住の市民3,000人（住基台帳から無作為抽出）
実施方法	郵送配布・郵送回収及びオンライン回答
実施時期	11月上旬から12月上旬（予定）

市外アンケート調査について

目的	広域的な山麓公園の利用実態を把握する
対象者	約30キロ圏内の市町（大阪市、大阪府北部、京都府南部）
実施方法	オンラインモニターアンケート
実施時期	11月上旬から12月上旬（予定）

04 市の考える目指す方向性

おもな論点(第1回提案)

①

これからの山麓公園は、将来にわたり、利用者や生駒市の活性化のために、どのような役割を果たすべきか

②

年代、市内・市外、利用形態など、どのような人たちを対象として、どのようなニーズに応えていくか

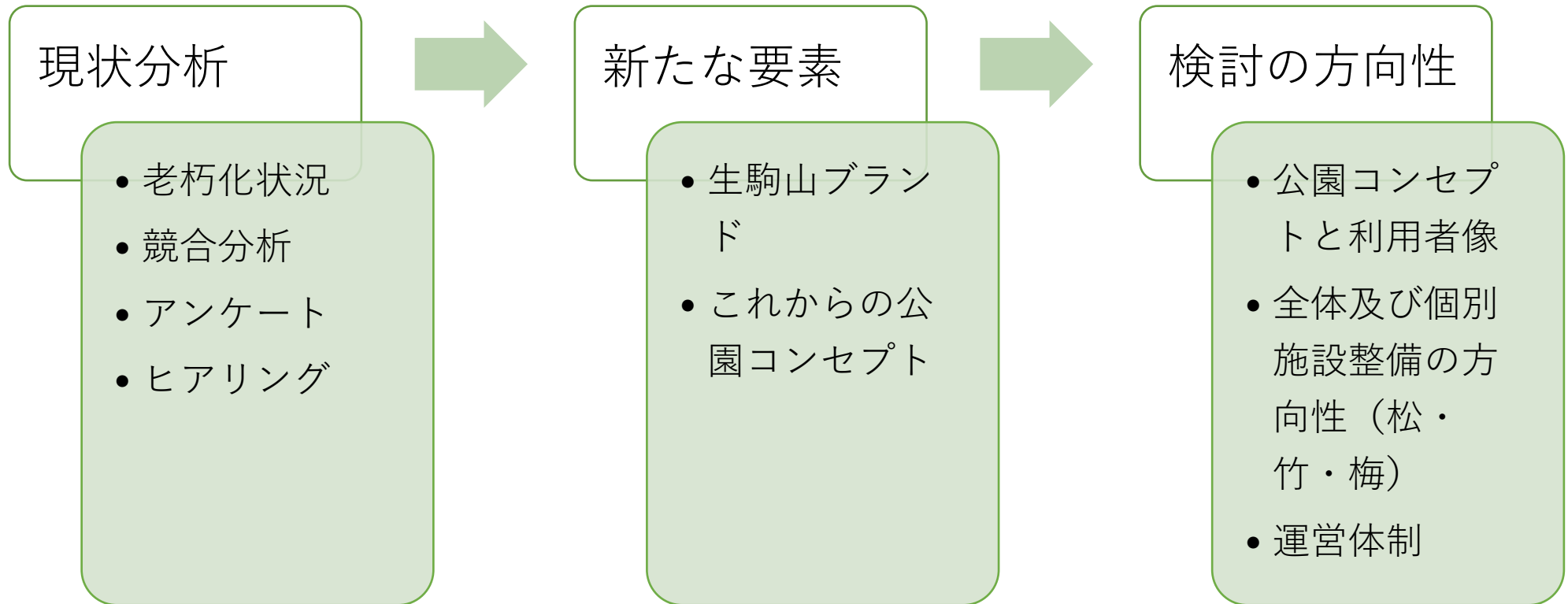
③

どのような枠組みで、誰と連携して、これからの管理運営や活用を進めていくべきか

④

再整備・管理運営の費用をどのように集めていくか（民間投資を含め）

検討フロー



現状分析～公園全体・各施設の課題整理

施設	施設の劣化状況	改修費・計画	利用率	周辺立地状況 (競合分析)	利用者アンケート	備考※1
全体 (植生含む)	1991年 供用開始	—	—	山上遊園地、府民の森等があるが、競合関係にない	日常的な利用が少ない	経年劣化で修繕が必要
ふれあいセンター (宿泊)	1991年建設	約11億円 【5,250㎡ × 216千万/ ㎡】 ※3	約17% (R5)	山麓公園はアクセス面ではやや不利だが、自然に包まれた生駒山麓のなかにあり、スポーツ施設やキャンプ場等と一体的な施設であるという有利点もある	「あまり利用しない」の割合が高い	一般向け、学生スポーツ団体などのニーズはあり、設備改善の余地はある。 回収は行政が改修を実施した上で、運営上の自由度が必要
ふれあいセンター (会議室)			約6% (R5)	会議室利用は方法が限られているのと近隣施設にも	「あまり利用しない」の割合が高い	施設内でも特に利用率が低い
ふれあいセンター (浴場)			約8万人/年 (約250/日)	周辺施設よりも際立って低額。 整備により料金を値上げした場合は、山麓公園内の他施設との連携等により、競合施設との差別化を図る必要がある	「最もよく利用する」の割合が高い。 「料金上昇でも質向上希望」の割合が他施設より高い (14%)	維持管理費用と浴場収益を同じくらいにする場合、約500円程度の入浴料が必要である (利用者数が変わらない場合の計算)
ふれあいセンター (レストラン)			約3万人/年 (宿泊含む)	飲食を伴う公園施設は近隣にはないが、市街地から近い ため、魅力が高くないとレストラン目的での来園は難しい	「あまり利用しない」の割合が高い	重度の障がい者が活動する場としては、自然が多い都市公園は活動しやすい 飲食施設がここのみであり、選択肢が少ない
野外活動センター	1992年建設	約1億円 【500㎡ × 216千万/ ㎡】 ※3	約34%	近隣の公立キャンプ場と比べ、山麓公園の利用料金は高額 近年、ファミリー・少人数グループ向けのロッジやコテージが人気で、それらの施設や体験プログラムの充実が求められる	「料金上昇でも質向上希望」の割合が他施設より高い (8%)	ロッジが好調であり、昨今のニーズを考えると、増やしていくべき 安価なキャンプ場は近隣にもあるため、ロッジなどに特化するのも良いと考える

※1事業者ヒアリング結果を含む ※2市作成 生駒山麓公園施設の概要 参考 ※3個別施設計画の「改修費用算出」を参考

現状分析～公園全体・各施設の課題整理

施設	施設 劣化状況	改修費・計画	利用率	周辺立地状況 (競合分析)	利用者アンケート	備考※1
フィールド アスレチック	1993年 供用開始※2	約1億5,000万円	約5万7千人/年	周辺にはアスレチック施設そのものが多くはない ポウケンノモリが30km圏内に4店舗みられるが、価格帯が異なる	「最もよく利用する」の割合が高い 「料金上昇でも質向上希望」の割合が他施設より高い (10%)	老朽化が否めない
大型木製遊具	1991年 供用開始	約1億円 R8～R9更新予定	—	遊具としては、山上遊園地にボーネルンド監修の「ITADAKI」があり、差別化が必要	「最もよく利用する」の割合が高い	利用者は多いが、主要エリアと離れている
ケーブルカー (展示)	1928年 2000年寄贈	1000万円以上 (車両のみ)	—	—	—	文化的価値が高いため維持していきたい
多目的広場	1991年 供用開始※2	—	—	四條畷総合公園に広いスポーツ施設があるため、スポーツ利用は厳しい	「あまり利用しない」の割合が高い	GWは不足を補うため、駐車場として運用している
テニスコート	1993年建設	—	約38% (R5稼働率)	市内のテニスコートの中では利用率は低い ヘビーユーザーが多い	「あまり利用しない」の割合が高い	—
せせらぎの広場	1995年 供用開始※2	—	—	—	—	夏場の水辺の遊び場や、体験プログラムの場として活用できる可能性がある
動々池	—	—	—	農家組合が管理	—	
万葉のみち	1996年 供用開始※2	—	—	—	—	—
花時計・桜広場	—	—	—	—	—	—
その他 (駐車場等)	1991年 供用開始	—	—	—	—	ふれあいセンター周辺に駐車場を増えるのが理想

※1事業者ヒアリング結果を含む ※2市作成 生駒山麓公園施設の概要 参考 ※3個別施設計画の「改修費用算出」を参考

現状分析のまとめ

■設置目的の観点での課題事項

設置目的	現状と課題	検討の方向性
市民福祉の増進と生活文化の向上	- 市外利用者が半数程あり広域都市公園としての存在 - 利用形態が施設利用に限られておりその機能に留まっている	- 利用者の現状を踏まえ、生駒山ブランド化の観点からも広域都市公園の意義を再定義 - 観光交流機能、関係人口づくり等の観点も盛り込み市民福祉の増進と両立させるコンセプトを打ち出す
市街地に近接する場所において、日々の喧騒を離れ豊かな自然環境と触れ合う機会を提供	- アクセスが車主体であるが有料道路経由で来場ルートが限られている（近接性が生かされていない） - バスは本数が少なく利便性が確保できていない	- 駐車場の再配置等利用者の利便性向上に向けた再整備 - バス等自家用車以外のアクセスの充実 - 山上遊園地・ケーブルカーとの周遊ルートの整備 - ハイキング等での生駒駅、東大阪側からのルートの整備
金剛生駒紀泉国定公園の緑豊かな自然環境の中で、市民の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供されている市内有数の公園	- 植生や公園遊具、野外活動センター、フィールドアスレチックなど老朽化がいなめず適切な利用に供されていない - 運動に関してはテニスコート利用のみ、生駒山のハイキング、ランニング層の利用はあるが、公園内での活動は少なく、通過点、飲食、入浴としての利用が主体	- 植生や公園内施設の必要性を吟味し、老朽化への対応として、「廃止、補修、リニューアル」を実施する - 公園内での散歩、運動機会を創出するために必要な施設のリニューアルや新設を行う - 休息、鑑賞面では、多目的広場及びその周辺での利用シーンを検討し、大規模花壇やピクニック、子連れの遊び場等、必要な施設を整備する
管理運営：施設利用を促進し管理コストの縮減を図り経営の効率化と収支の改善	- 利用層が固定化しており、現状では大きな誘客要素は少ない - 老朽化による修繕コストが増嵩している - 入浴利用は減免対象の高齢者が多く収益に貢献していない - 屋内プールなど未利用施設も存在	管理費の増高を見込み、市が公益的に整備・管理する区域と広域集客による収益施設として整備・管理する区域を分け、官民の役割分担のもと効果的・効率的な整備・管理手法を検討する

現状分析のまとめ

■ふれあいセンター条例「市民の学習、文化活動、レクリエーション及び保養等の場を提供し、次に掲げる事業を行う」

設置目的	現状と課題	検討の方向性
市民相互のふれあいの促進及び市民の健康の増進に関すること。	- ふれあいの促進では、高齢者の入浴利用や団体利用に限定されており、交流機会の提供が少ない - 健康増進では、公園内の施設利用に限られておりその機能での利用に留まっている	- 健康増進に繋がる機能を施設内に配置する - 交流スペースを設けるなどし、市民交流の機会を創出する
生涯学習の振興に関すること。	- 設置時の所管の関係では、生涯学習の振興が規定された - 現在は公園所管となっており、直接的な生涯学習機能での事業実施は少ない	生涯学習面での位置づけの見直しを検討する
高齢者の自立と生きがいの創造に関すること。	- 設置時の所管の関係で、高齢施策として浴場運営をしていたため、日常的には入浴利用がメイン - その他で公園内での機能、サービス提供は弱い	高齢者向けに入浴以外のサービス提供の必要性を精査し、必要な機能の検討を行う
障がい者の自立と社会参加の促進に関すること。	- レストラン運営、花壇等管理で障がい者が活動しており、自立支援の場として機能している - ただし、障がい者の就労施設が研修施設内にあるが、壁が薄いなど場所として適切でないとの指摘がある - 宿泊者への食事提供などサービスの改善と障がい者就労の場として両立面で整理が必要になっている	- 障がい者の就労施設の場所の再検討 - 宿泊者への食事提供のあり方を検討
青少年の健全育成に関すること。	- 市内の小学校合宿、野外活動でのニーズもあり、少子化で施設規模とマッチしてきている面もある - 宿泊の利用料が低額であるため、スポーツ団体の利用も多くなっている - 市外の大学や団体の宿泊、学習塾の研修室利用も多い	宿泊・研修の目的やターゲット層の整理を行い、それに対応する際に必要な改修を検討する

※当条例制定時、当センターは、生涯学習部局（宿泊機能）、高齢施策部局（浴場）、公園部局（研修施設・レストラン）の3部局で共管していた。当初の運営は、（財）生駒市ふれあい振興財団。

新たな要素

生駒山ブランド

- 生駒山麓公園だけでの発展ではなく、広域的な魅力創造
(不足を補いあうような施設配置、連携の構築)
- 30年を経過した生駒山麓公園の新たな価値
(生駒山という地理的特性を踏まえた公園づくり)

これからの山麓公園に求められる機能

- 生駒山におけるアウトドアアクティビティの拠点
- 生駒山上遊園地を起点とした子育て世代の遊び場
- 市民が集える緑豊かなコミュニティパーク
- ハイカーやトレイルランナーの生駒山での活動の起点

再掲

生駒山ブランドの推進

生駒山ブランドに関する取組

- ・ 生駒市、東大阪市、近鉄で「生駒山ブランド推進協議会」を設置
(近鉄の参加は令和7年度～)
- ・ 令和7年度から「ミシュラングリーンガイド」の取得に向けた取り組みがスタート



山麓公園で充実が求められていること

- ① 観光資源の魅力向上
 - ・ アンテナショップ・案内所の設置・宿泊施設誘致・飲食店の充実
 - ・ グルメ・お土産品開発・体験型レジャーコンテンツの開発
 - ・ 冬季のアクティビティの開発
- ② 地域連携の強化（地元小中学校の登山学習等）
- ③ 観光動線の整備（観光用シャトルバス、周遊ルート）

検討の方向性(案)

基本コンセプト

生駒山で健康と楽しさがめぐる“交流の森”

市民福祉 × 観光・教育 × 健康



目指す姿

“多機能型公園”

市内外の多世代が交流する広域都市公園へ進化

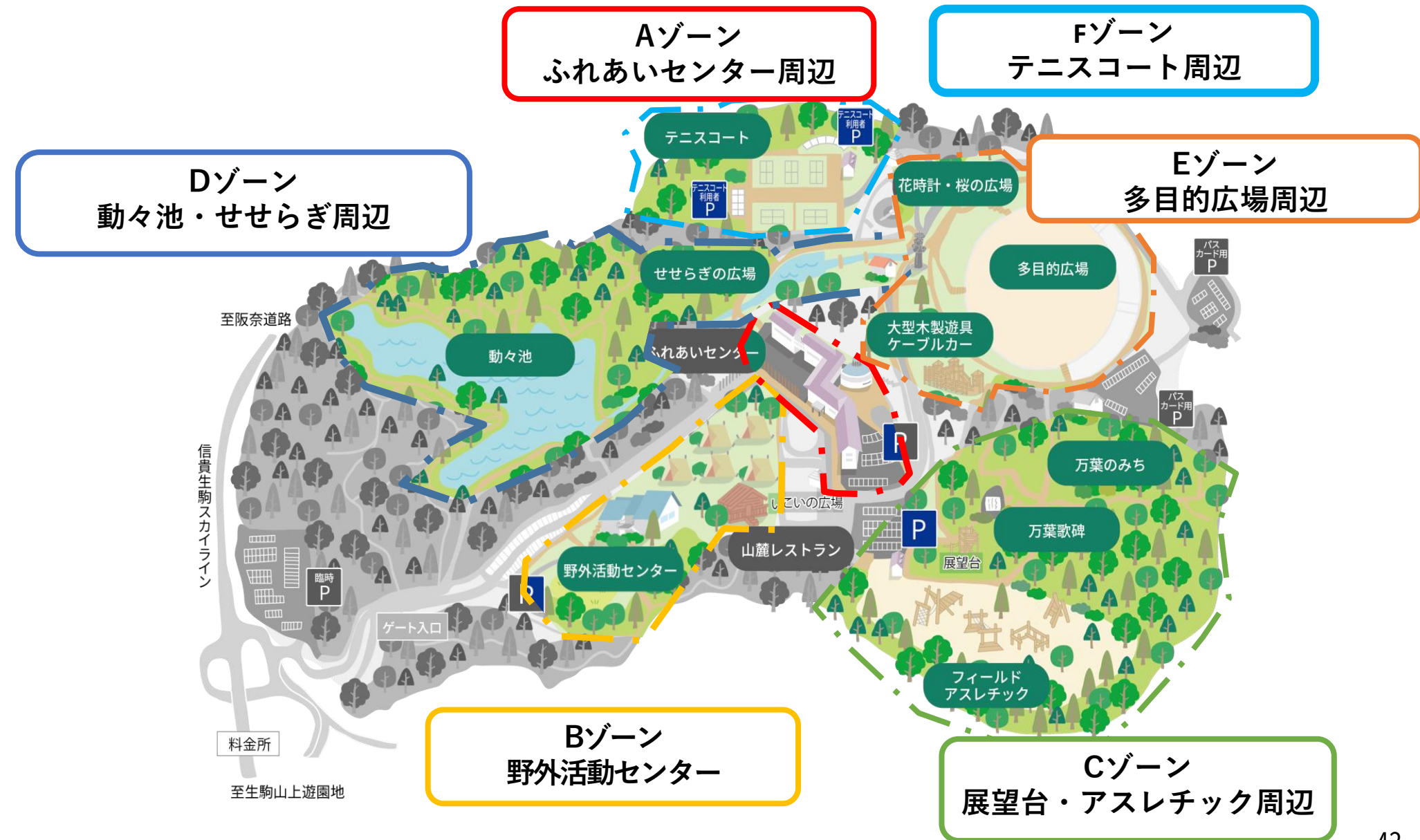
ターゲット

子育て世代
・ 30代～40代

アウトドア活動層
・ トレイルランナー
・ ハイカー
・ アウトドアファン

温浴志向層
・ 全世代が楽しめる
施設へ

検討の方向性(案)全体図



検討の方向性(案) ゾーン別展開

ゾーン	主な機能	整備の方向性
①ふれあいセンター周辺 (Aゾーン)	宿泊・浴場・レストラン・プール	- 宿泊棟リノベーション(家族・団体兼用) - 屋内滞在施設 ・フィットネス ・温浴拡充 - レストラン+地元産品ショップ化 - ランニングステーション - 施設の増改築又は廃止のうえ民間整備
②野外活動センター (Bゾーン)	ロッジ・キャンプ・体験	- ロッジ増設・キャンプ機能の廃止 - こもれび館の利活用(カフェ+アウトドアショップ、ビジターセンター等)
③アスレチックゾーン (Cゾーン)	斜面型遊具	- 現施設は廃止 - 他の有料体験型施設も含め全面再整備
④せせらぎ・動々池 (Dゾーン)	水辺・親水	- 水遊び可能化・SUP・カヤック等水辺のアクティビティ導入 - 水環境学習・体験拠点化
⑤多目的広場・花の丘 (Eゾーン)	憩い・イベント	- 芝生化+季節花壇等の整備 - マルシェ・夜景スポット整備 - 大型複合の更新(インクルーシブ遊具も検討) - ケーブルカー展示のリニューアル
⑥テニスコート (Fゾーン)	体育施設	- 現施設は廃止(個別施設計画での方針)

検討の方向性(案) テーマ別展開

01健康・ウェルネス

方針 高齢者・市民健康拠点化

主な取組 ランニング起点、屋外運動機器、コミュニティスペース

02教育・体験

方針 自然×学び×SDGs

主な取組 環境再生ボランティア、学校体験連携

03観光・広域交流

方針 生駒山ブランド連動

主な取組 ケーブル・遊園地・ハイキング連携、周遊バス導入

04福祉・包摂

方針 共生と社会参加

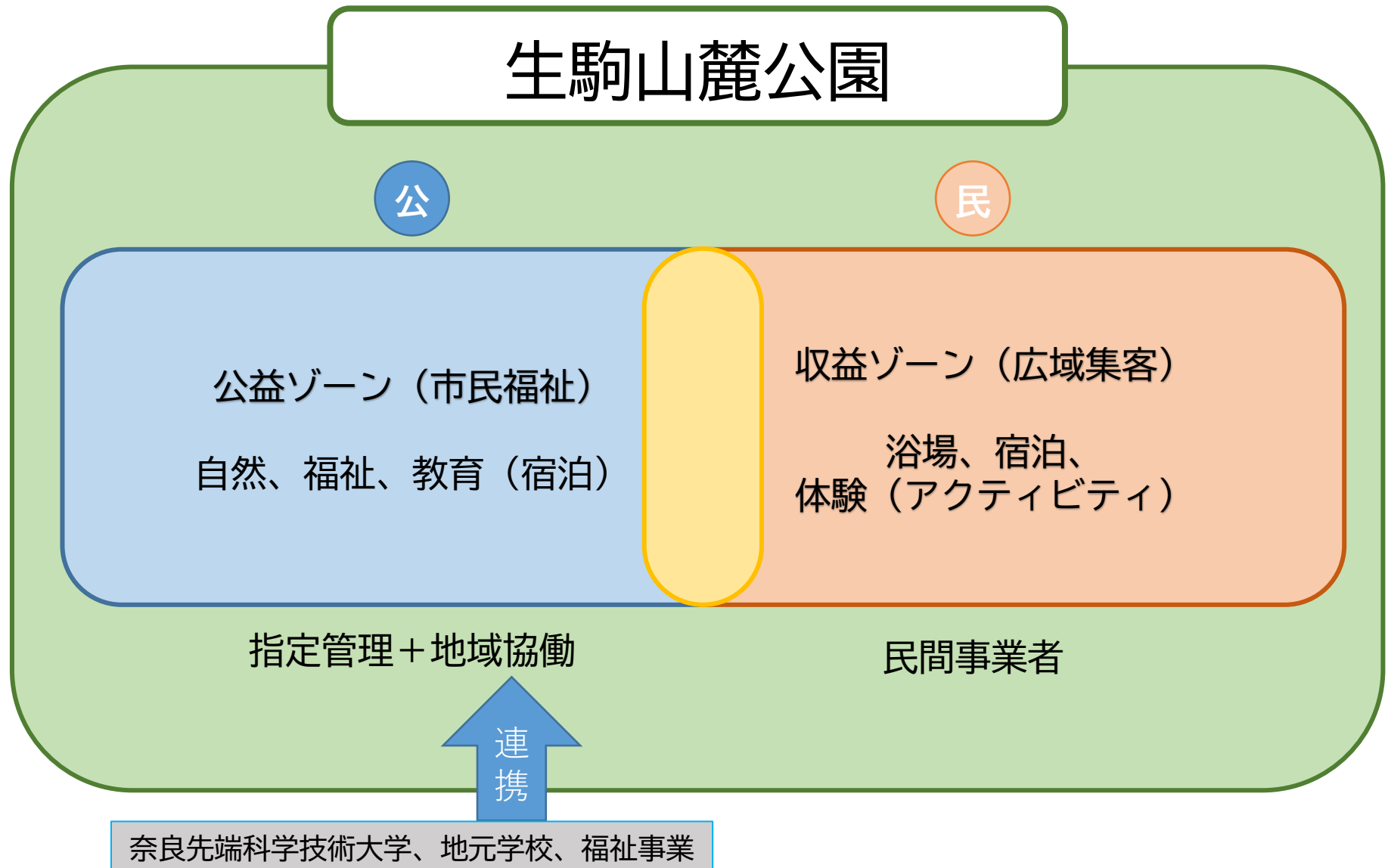
主な取組 障がい者ゾーン明確化、視覚的バリアフリー整備

05デジタル・運営効率

方針 DX・キャッシュレス

主な取組 駐車場ナンバー認識、オンライン予約・電子決済

運営・マネジメントの方向性(案)



05 今後のスケジュール等

全体事業スケジュール(案)



懇話会の展開

● 各回の検討・協議事項(案)

回数	検討・協議事項(案)
第1回（8月1日） 現状共有と課題整理	✓ 現地確認 ✓ 再整備事業および懇話会の目標・検討スケジュール
おもな調査検討	競合施設、無料利用者数等の現状整理/利用者、指定管理者・関係者ニーズ調査
第2回（10月14日） 市民ニーズ等を踏まえた 方向性の検討	✓ 利用者、指定管理者・関係者のニーズ調査の結果報告 ✓ 基本構想の方向性の検討
おもな調査検討	市民・市外アンケート/民間事業者意向調査/調査結果を踏まえた公園施設の在り方整理、想定事業スキームの整理、施設再整備事業素案の作成
第3回（11月18日） 基本構想（原案） 事業の枠組みの検討	✓ 市民・市外アンケート、民間事業者調査の結果報告(速報) ✓ 基本構想(原案)の検討
第4回（1月13日） 基本構想(案)の検討	✓ 基本構想(案)の検討 ✓ 今後の事業スケジュールの検討